

日時:平成22年2月16日(火)16:50~17:20

場所:総務大臣室

議題:○協議事項

・定住自立圏の視察について

○報告事項その他

- ・新たな電波の活用ビジョンに関する検討チーム(第4回会合)の結果について
- ・第1回新たな過疎対策(ソフト対策)の推進に向けての研究会の結果について
- ・第2回整備新幹線問題調整会議の結果について

○原口大臣

お疲れさまです。階政務官が来る前に逢坂補佐官、この後、官邸説明がございますので、まず逢坂補佐官から。

○逢坂補佐官

私の方は、今日、特段無いのですが、2月18日に国と地方の協議の場の法制化の実務検討会議3回目を開いてですね、ほぼそこで法制の内容が決まるのかと思っています。今ちょうど色々やっているところでございます。以上でございます。

○渡辺副大臣

それでは、ただいまから三役会議を始めます。それでは、大臣から御挨拶をお願いします。

○原口大臣

お疲れ様でございます。いよいよ衆議院の予算委員会の総括質疑が終わって、その後、一般質疑、それから今日、本会議の地方税法、交付税法の改正案の質疑という形になってきました。

三つお願いをしたいと思います。

一つは、公務員制度改革。これは先週、皆さんにお願いをしてですね、条文のチェックということをやっていたおかげで、私たちの意思が更に明確になる条文がもうじきできるということでございまして、是非、政務三役の中でしっかりとチェックをしてください。総務省の各司(つかさ)、司(つかさ)、非常に協力的ですけれども、他省とやる場合、あるいは特に官邸とやる場合、あるいは内閣府とやる場合、そういった時にいくつかのまだこなれていない部分が起きています。これを意識的にチェックして、そして私の所に来てひっくり返ることがもう無いようにお願いをいたします。それが一点目。

二点目ですが、岩手の視察、本当に階政務官をはじめ、皆さんありがとうございました。大変良い視察になりました。地域の活力を活かすということで、ICTと、この後、渡辺副大臣からお話があると思いますが、緑の分権改革の先進地を繋いで、そしてもっと国民の皆さんに分かりやすくお示しをしていきたいと思っていますのでよろしくをお願いします。それが二点目です。

それから三点目は海外との様々なリンクです。例えば、よその省庁を言っちゃいけませんけど、原子力の海外展開、かなり苦しい状況を招いているようであります。昨日、エストニアの首相と会談をさせていただきましたけど、世界で一番最初にインターネット投票を導入している。あるいは、個人情報にしっかりと配慮しながら国民のIDを作って、その上で様々な医療サービスを行っていて、非常に先進地で

あります。どこかで先進地視察もしたいと思いますが、NICTとの間で昨日、首相とお話をして研究員交流ということ合意をさせていただきましたので、さらにこの分野で今までの自公政権の方々との議論を聞いていると、非常に内向きです。こんな議論を聞いていて、国民の景気が良くなるわけがない、経済が発展するわけがない。むしろ、ダイナミックに私たちは行政管理をきつくやるとともに、様々な産業の、郵政もそうですけども、飛躍の、いくつもの鍵を持っている役所ですので、その人たちの力を120%生かせるようなことを考えていきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。私の方からは以上です。

#### ○渡辺副大臣

ありがとうございました。では協議事項ですが、私の方は3分間いただきまして、ちょっと大臣と同行させていただいて、岩手県に行った後のことを話させていただきます。大臣と別れた後、翌日、1日、八戸と八戸に隣接します南部町という所に行ってまいりました。これはいわゆる、定住自立圏構想で前政権の時から続いておりますけれども、しばらく政権交代に伴ってこの構想の懇談会も止まっております。先日、私、そして、階政務官と出席をさせていただいて、佐々木毅さんが座長を務めている会議ですが、いわゆる定住自立圏構想自体のこれからをどうするかということも含めて、青森の市長さんが熱心に行っているものですから、青森の八戸市に岩手から行ってまいりました。見てきたのは南部町というのはこれ三村知事も進めている達者村という、まさにいわゆるグリーンツーリズムという農業体験をさせる、遠野市でもやっておりますけれども、修学旅行の受け入れ、2万2千人の町になんと2千400人が来ているという、大変な、まさにアナログな活性化をしております。そんな中でこれは農水省のモデル事業でもあるんですけれども、まさにこういうところですね、そこに生きている人たちが農業に従事している年配の方々が家を改築して民宿風にしてみたり、あるいはその子供達が縁でできたいろんな京都やあるいは神奈川県との中で特産品をある意味ではビジネスとして売ったりですね、そういう形をしながら何とか地域の活性化に取り組んでいるということでございます。これが南部町だけでは子供を受け入れられなくなりまして、この次のページにございます、周辺の五戸、三戸だとか八戸の一部も含めて実は、子供達の受け入れをお願いしている訳でございます。そういう中で、少しは地域の活性化に役立っているんですよということも控え目に町長さんがご説明をいただきました。

そしてもう一つは医療体制ということで八戸に行ってまいりました。やはり定住自立となりますと、これはそこに住んでいる人たちの安全と安心という中で、当然、医療インフラの充実が必要でございます。市民病院はかなり整備が進んだ病院ではございますけれども、ここからですね周辺の五戸、三戸という所の病院に対して、いないお医者様を、実は病院同士で話し合いの結果、送っている。下にありますように、ドクターヘリを購入し、これは国の補助ですけれども、市の単独事業でドクターカーを今度は導入してですね、ドクターヘリで夜間等運行できない所の補完をしているということでございます。

で、やっぱりここで一つ言えるのは定住自立の中で一番必要なのは、やはり人に密接に関係している方々ですね、住んでる人達の医療の確保であり、もう一つはやはりこの前半の修学旅行の受け入れじゃないですけど、やはり生きがいということです。これは内藤副大臣も行かれた徳島の上勝町の葉っぱビジネスにも相通ずる部分かなと、それで3枚目にありますが、原口大臣の緑の分権改革とあいまって、これまでの定住自立圏構想、これとですね、もう一つは我々の取り組んできた過疎対策法ですね、さらなるバージョンアップとあいまってですね、やはりこの3本をどうしていくかということだと思います。これは、定住自立圏構想というのは、結論の出ない構想をいつまでも議論するのではなくて、この構想をですね、医療に特化するのか、それとも、今日も代表質問にありましたけど、医療、公立医療の充実確保ですね、力を注ぐのか、それとも緑の分権改革の中でですね、融合させていくのか、このちょっと自立圏構想を少し何と言うんでしょうか、意義付けをもう少しクリアにさせていったほうがいいの

か、というような感触を持っております。もし大臣のご指示があればですね、この懇談会の中でですね、今後どうしていくかということにつきまして、様々な方向を考えていきたいなと思っております。以上でございます。

#### ○原口大臣

様々な構想が生まれている、前政権からのやつでも途中で切れて、絆とか試みとか無くなることのないように。特に、この間、遠野に行きましたら、階政務官が、例の遠隔医療のシステムを今年度限りでということになっていますので、そういうものは継続をしっかりできるような仕組みを考えていく。その遠隔医療の発祥の地は香川県。小川政務官の場所なんですね。渡辺副大臣ありがとうございます。

#### ○渡辺副大臣

はい。それではよろしいでしょうか。定住自立圏構想の懇談会の今後につきましては、また大臣とも協議をしながら、いろいろまたバージョンアップを図ってまいりたいと思います。

それでは報告事項でございます。内藤副大臣、お願いします。

#### ○内藤副大臣

私の方からは電波の活用ビジョンに関する検討チーム、これは、要はホワイトスペースの活用を検討する研究会でございますが、その報告を簡単にさせていただきたいと思っております。前回もまた今回もそうなのですが、各メンバーからどういう使い道があるのかという提案、プレゼンテーションをしていただいております。

今回はですね、ホワイトスペースというのは電波がかなり空くわけですし、一部分を家庭内で自由に使えるように開放してもらえないか、そのことでまずは見かけ上はですね、コードを結ぶことなく、ありとあらゆる家庭内機器がネットワークされるというような趣旨の提案がございました。そしてその提案を踏まえていろいろな意見があったわけですが、今、私達、日本はやはり環境問題に対して意識が高まっているわけですが、それはスマートメーターとかスマートグリッドというのが浮上してきているわけでございます。特に家庭内においてはスマートメーター、つまり、ありとあらゆる電気を使う、電力を使う設備をこの電波を使って集中的に管理をして、そのことによって究極の省エネを達成するというのがスマートメーターというものなのですが、そういったものにも活用できるのではないかと提案があったことをご報告させていただきます。

あともう一つ場所を変えてですね、簡単な実証実験をしたのですが、実はホワイトスペースというのはテレビのチャンネルの空き部分を使うわけですから、言ってみれば、今、皆様方がお持ちの携帯のワンセグでチューニングさえすれば、それが端末となって、実は地域の情報が簡単に受信できる。どの程度簡単に受信できるかと思ったのですが、まだちょっと高いのですが、売れてないので、何百万かする装置があってそしてテレビカメラを向ければ、すぐ皆様方のワンセグで受信できるということ、簡単に、実証実験を行いました。以上でございますが、次回のことなんです、以前も原口総務大臣にお許しを頂いたのですが、もっとホワイトスペースに関する国内の議論を活性化しようということで、シンポジウムを開こうということで、次のページをおめくりください。3月1日12時頃開場ということを考えているのですが、冒頭、原口大臣より、ご挨拶をいただき、私からはこれまでの議論の経過などを発表させていただきます、それを皮切りにですね、ご覧のメンバーで、そのような議論をしていきたいと思っております。アメリカからは、マイクロソフトやインテルがこのホワイトスペースにかなり関心を持っているということもあり、こういった方々に来ていただくことで、議論に厚みを増していこうと考えております。以上です。

○渡辺副大臣

それでは、よろしいでしょうか。それでは、政務官から。

○小川政務官

二点、ご報告申し上げます。一点目は、過疎法の取り扱いが、間もなくということで、これに向けて、ソフト対策を充実させるための研究会が開かれました。高知県の大豊町をはじめ、4市町から、できるだけ柔軟な、使い勝手のいい仕組みにしてほしいという要請などを伺っております。二点目は整備新幹線の調整会議です。財務省、国交省の政務官レベルの第2回です。札幌・函館ルートについて、議論しました。いずれにしても財源の問題や、並行在来線の問題など、問題が山積しているな、というのが印象です。今後も議論してまいります。以上です。

○渡辺副大臣

皆さんの方から、その他に何かございますでしょうか。

○原口大臣

私の方から2点。一点目は、裏金の存在についての質問主意書が多数出てきておまして、総務省としては私たちの政権でそんなものを見逃したということはありませんので、これはどの省とも関係なしに、しっかりと監視をしていきます。それから、今日の予算委員会の質問の中で、お手元の資料、ネットで配信してますから、具体的には言いませんが、特定議員の特定の口利き、あるいは利益誘導、といったことを厳密に排除していきます。これは前政権時代の、表をご覧くださいと、特定の人間が、特定のことをやっている。そして、行政が歪むということは、絶対あってはなりませんので、政務三役におかれましては、公正性・公平性、行政のコンプライアンスという観点から、しっかりと目を見張って、深く、司(つかさ)、司(つかさ)にですね、指示をしてください。これが一点目。

それからもう一点目は、やはり、私達の中で、渡辺副大臣を先頭に、各地域に行って頂いてますけれども、できるだけ地域を回って、特に厳しい所、夕張や、そういった所にできるだけ早く入りたいと思いますので、決着、道筋をつけてください。よろしく申し上げます。

○渡辺副大臣

はい。他に皆さんの方から何か。

一つ言っていていいですか。今日の新聞、これ静岡新聞って地元の方から共同通信が配信してるんですが、大臣がよくおっしゃってるグローバルな成長戦略の、「東京都が水道技術を海外売り込みへ」というのが映されています。東京都がですね、既に海外から水道管の管理を請け負って欲しいという打診があり、実はその日本の漏水対策というのは世界でもトップレベルでありまして、東京都がもう既にそれをですね、早ければ10年度に他社と提携し、第三セクターが現地で入札に参加する。で、横浜市の水道局のOBを中心に、いわゆる天下り批判もあるんですけど、実はその水道会社をやっている。で、これはまさにですね、フランスやオーストラリアはご存じのとおり、中国の水ビジネスの中で給水事業の8%、ただダムにすると1割近いんですけどね、そのうちの一部を既にスイスやフランスやオーストラリアはやってるんですね。日本はどうしても公的セクターですから、今までその水道技術を外に売るということがなかったんですが、これから打って出る中では、やっぱりこういう東京都の試みや、横浜市が立ち上げる、まさに会社なんかが、外に出て行って、特に先ほど、今日もベトナムの事が新聞に出てましたけど、日経の1面に。こういう都市インフラの整備の中で、地方の、例えば水道なんかの持っている技術をインフラ整備に使うようなですね、そういう構想なんか研究してみて、できれば私も大臣のもとにまた何かこ

う報告できればと思います。

○原口大臣

そうですね。とても大事な視点だと思いますので。日本は世界有数の技術をいっぱい持っている。この間、町おこしを協力いただいている安藤忠雄先生のお作りの美術館に行ってきました。クリストさんという世界的なアーティストと一緒に三宅イッセイ先生とそれから山崎やすよ顧問と5人で行きましたけども、エレベーターが五角形してますね。五角形のエレベーターはなんていうのは日本にしかなくて、そういう鉄のものを作る技術は日本にしかない。だけとおそらく政治のOSがなくて渡辺副大臣がお話したように外に開いていないんですよ。それをやはり私たちが戦略的に発見して外に開いていく。私たち自身がセールスマンになって、今まであまりにも日本が強かったのもそのところを民間だけに任せて中央政府がさぼってますね。それをしっかりと意識的にやりたいと思います。よろしくをお願いします。

○渡辺副大臣

他にみなさん何かありますか。

○原口大臣

階政務官、何かどうぞ。本当に、ありがとうございました。この間、大変、公務員制度改革もしっかりと。

○階大臣政務官

はい。ちょっと、すったもんだは、ありましたけれども。なるべく途中段階でご報告してですね、条文のチェックとかは私もやっておりますけれども、官僚の皆さんのチェックと僕らのチェックとは違うとは思いますが、できれば時間がある限りは条文を見たいと思います。

○原口大臣

そうですね。複数の目で見ただ方がわかる時もあると思いますので、定期的に法文勉強会みたいなのをやっていきたいと思えます。

○渡辺副大臣

よろしいでしょうか。それでは、これもちまして、三役会議を終わります。

終了